

ビタミンマッサージ



町田 久 Hisashi MACHIDA

セラ治療院院長

昭和23年生まれ。49年セラ治療院開業。
50年日本鍼灸理学専門学校卒業。
平成6年中国福建省中医学院名譽教授就任。
16年日本統合セラピスト教育協会（J-EAT）会長就任。
現在セラ治療院院長。

●ビタミンEによる マッサージを考案

治療院を開業したのは33年前の昭和49年です。開業して間もない頃、三石巖先生が糖尿病の持病で通院されてきました。三石先生のお名前は存じ上げていました。開業する前、余った時間を潰しによく図書館に入り浸っていました。そこで三石先生の著書「文明の解体」などを繰り返し読んでいたのです。「文明の解体」とは自然、人間、科学技術、資本はそれぞれ人間の意志や操作なしに自動的に自己運動を行なっているというものです。三石先生は慶応大学、津田塾大学などの物理の教授でした。先生がセラ治療院に求められた際、ちょうど分子栄養学を提唱し始めた頃で、「自宅で毎週分子栄養学の勉強会をしているから来てみませんか」と先生から声をかけられました。

分子とは遺伝子のことを目指し、遺伝子を補って我々はタンパク質を作りながら代謝していくのですが、その過程でどのような栄養が絡んでいるか、必要であるかを考える学問です。その後、昭和51年から先生は「高タンパク健康法」「ビタミンE健康法」「ビタミンC健康法」を次々に講義社から出版。それぞれがベストセラリになりました。今もそれぞれの本が手元にありますが、情報量、情報の視点の確かさなど、今読んでも全く遜色のないものです。先生の自宅での勉強はそれから10年、15年と続くのですが、それと同じくして治療院では治療に

も分子栄養学を取り入れていきました。一番のポイントとなったのがビタミンEによるマッサージを始めたことです。当時ビタミンEはソフトカプセルの技術がなかったのでビンに入っていました。ビンからスプーンで飲んでいたので、そうして飲んでいたビタミンEをマッサージ治療に使えないかと思いつきました。これがビタミンEマッサージの始まりです。

最初に使った感触を今でも覚えていますが、ビタミンEをビンから手にとって患者さんの肩にマッサージしました。ひどい肩こりがスーッと消けるようになっていきました。マッサージの治癒というのは、最初の指での感触で患者さんをごのようにマッサージすると、このように変化すると予測ができるものです。そのイメージを述べていくのが治療ということになるのですが、ビタミンEを使うことで、そのイメージを全く壊させられませんでした。実技を伴ったセミナーでは、セミナー受講生にマッサージする前のモデルの患部に触ってもらいます。それから私がビタミンオイルで1、2分マッサージしてから、もう一度その患部に触ってもらいます。1、2分での筋肉の変化に受講生は一応に驚きます。ヨーロッパ、アメリカなどでこのセミナーでは神秘的とか魔法の手といった声がかかるほどです。